

令和8年9月会議

一般質問 参考資料

大山 希世 議員

町長あいさつ

「島の幸福論」を語り合おう。

平成21年4月から、新たに第四次海士町総合振興計画のもと、海士町のまちづくりがはじまります。前回の第三次海士町総合振興計画では、「キンニャモニャの変」として、人づくり、モノづくり、健康づくりを柱にまちづくりを進めてきました。その結果、島のブランド化や新たな起業家の誕生など、新しい島型ビジネスを生み出すことができました。

こうした成果を踏まえ、さらに海士町のまちづくりを発展させるため、第四次海士町総合振興計画では「島の幸福論」をテーマにかかげました。これは住民の「自分たちの島は自ら築く」という挑戦の意志と一人ひとりが足元から小さな幸福を積み上げ「海士らしい笑顔の追求」をしようという思いが込められています。

今回の総合振興計画策定とその別冊である『海士町をつくる24の提案』の制作には、約50人の住民のみなさんが参加してくれました。これは、海士町40年の歴史上、初めての試みです。島に住む一人として、生活の中で実感する課題は何なのか、それを克服し幸せを実感するにはどうしたらいいのか、議論を重ねて、島を幸福にするアイデアをこの一冊の本にまとめました。

50人の輪が、100人の輪となり、1000人の輪となり、多くの人がまちづくり挑戦し、「島に生きる幸せ」を実感してくれることを願っています。

2009年4月吉日

海士町長 山内道雄

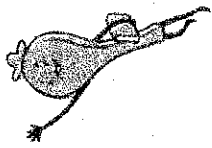
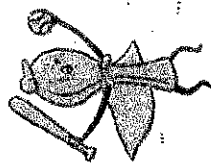
※鳥取県海士町ホームページより

第四次海士町総合振興計画 別冊 2009-2018
海士町をつくる24の提案

はじめに

海士町では、10年に一度「総合振興計画」をつくっています。これは今後10年、海士町はどんな町を目指すのか、それを実現させるためにはどうすればいいのか、さまざまな分野にわたって計画を練ったもので、海士町の行政はこの計画に基づいて運営されています。過去には平成元年に「クオリティ・ライフへの出発」、平成11年には「キンニャモニャの変」をテーマとした海士町総合振興計画をつくりました。観光施設などの基盤整備、特産品の開発や地域のブランド化、それらに関わる人材育成など、この総合振興計画による成果は多岐にわたっています。

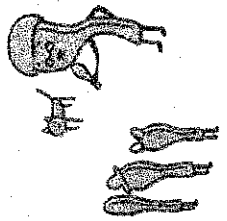
そして今回、新たにまとめられた第四次海士町総合振興計画のテーマは「島の幸福論」です。これまでの計画を継承しつつ、新たな時代の流れや海士町が抱える課題に対応した、持続可能な島の実現を目指すことに加え、住民一人ひとりの「幸せ」が大きなテーマになっています。海士町に住むことで、いかに幸せを感じられるか――。物質的豊かさ、先の見えない不安が背中合わせの現代だからこそ、これからのまちづくりには「住民の幸せの追求」が重要だと考えました。



住民一人ひとりが「幸せ」を実感できる町、海士町。そのまちづくりの第一歩として、昨年2008年、公募による住民と役場の若手職員を合わせた約50名で構成された「海士町の未来をつくる会」が結成されました。幾たびの話し合いを重ね、総合振興計画の案を作成。住民の声を反映した第四次海士町総合振興計画を完成させました。さらに今回は、住民が計画づくりに参画するだけでなく、その後のまちづくりにも参画する仕組みを盛り込んでいます。これは海士町初の試みです。

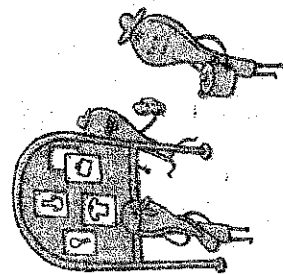
この『海士町をつくる24の提案』は、第四次海士町総合振興計画の住民向けの別冊としてつくられました。住民一人ひとりがまちづくりに参加し、「海士町に住む幸せ」を実現するためにはどうしたらいいか、そのガイドブックの役割を担っています。

「海士町に住んでよかった」「海士町に住み続けたい」。ひとりでも多くの住民が、そう感じられる海士町にするために、ひとりでもできること、10人でできること、100人でできることなど、人数別にまちづくりのアイデアが提案されています。まちづくりの主人公は住民です。さあ、この本を片手に未来の海士町を一緒につくりましょう。



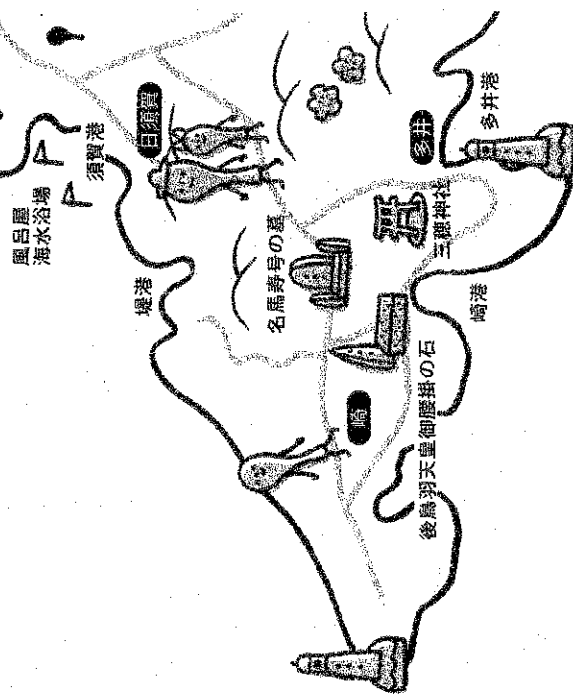


03	町長あいさつ	54	100人でできること
04	はじめに	56	13 ちいさな農のある暮らし
08	海士町は素晴らしい！	58	14 炭焼きクラブ「鎮竹林」
10	海士町の自慢	60	15 A M A 情報局を開局しよう
12	今、海士町がかかえる問題	62	16 欲しいものは島でつくる
16	海士町の未来を描こう	64	17 支えあって暮らそう
18	まちづくりなんてできないと思っている人へ	66	18 地域に「ただいま」を言おう
20	この本の使い方	68	19 里山と里海をつくろう
22	1人でできること	70	20 みんなで学ぶ島のエコ
24	01 歩いて暮らそう	72	コラム3
26	02 天職をみつけよう	74	1000人でできること
28	03 海士の味をうけつごう	76	21 地域が支える学校づくり
30	04 もっと水を大切に！	78	22 魅力ある島前高校をつくろう
32	05 もったいない市場	80	23 海士大学に入学しよう
34	06 エネルギーを見直そう	82	24 海士まちづくり基金
36	コラム1	84	提案をかたちにするために
38	10人でできること	86	役場のリーダーと相談と支機の窓口
40	07 海士人宿につどおう	88	アイデアをかたちにする5つのステップ
42	08 ガキ大将を育てよう	90	海士町総合振興計画本編との対応表
44	09 あまさん倶楽部	92	この本ができるまで
46	10 海士ワーキングホリデー事業	96	海士町まちづくり提案書
48	11 ワゴンショップ海士号		
50	12 おさそい屋さんになるろう		
52	コラム2		

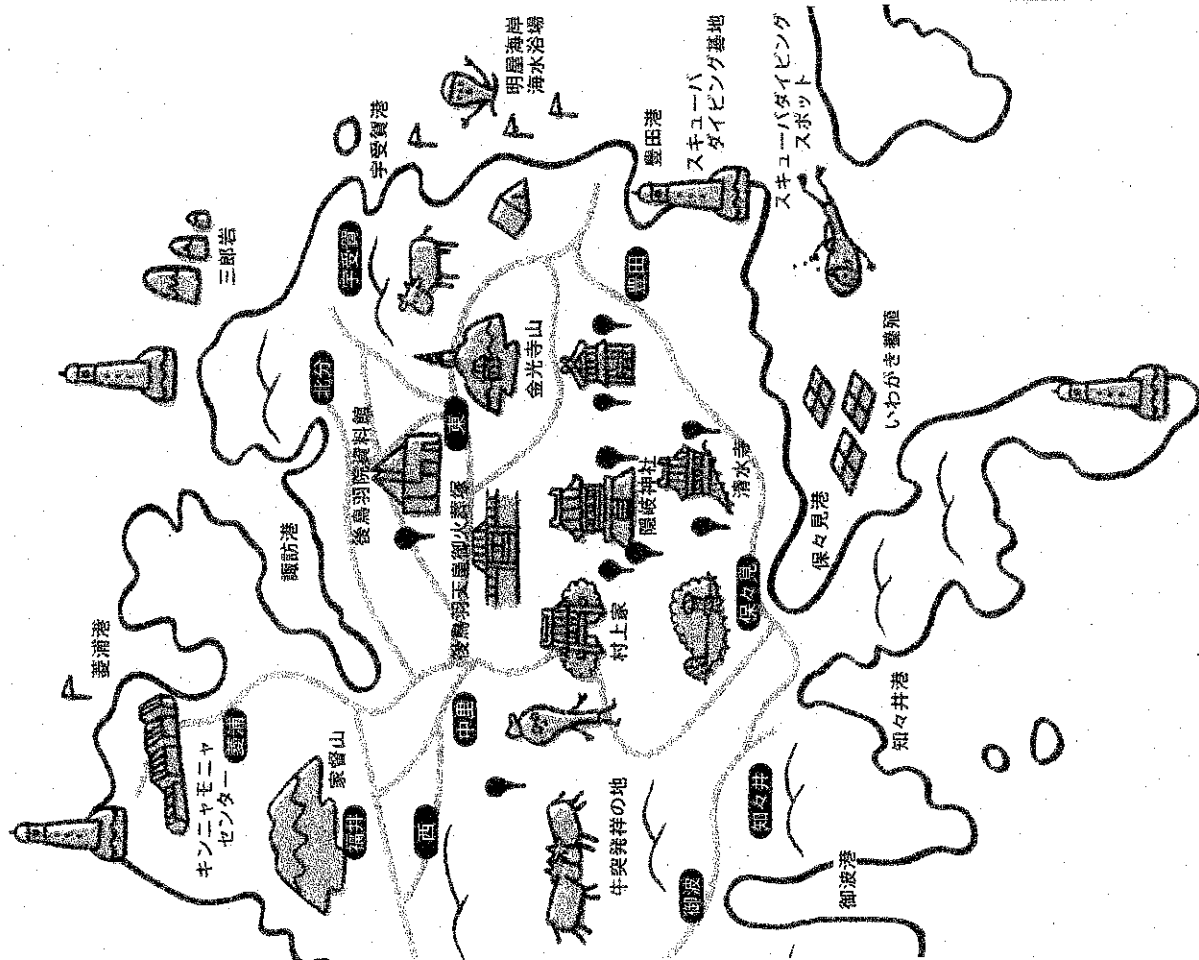


海士町は素晴らしい！
あたりまえと思っ
ていた。実はと
っても贅沢でした。

いつも見ている青い海、山から流れるきれいな水。
ご近所さんは顔なじみ、山海の幸も豊かな島——。
あたりまえだと思っ
ていた。あらためて見
つめ直すと、いかに
素晴らしいものかわ
かるはず。
あなたの好きな海
士町はどんなところ
ですか？



△＝海水浴場



海士町の未来を描こう。

今回まとめられた第四次総合振興計画のテーマは、「島の幸福論」です。海士町は、今後10年をかけて、島ならではの幸せを追求し、住民一人ひとりが幸福を実現できる社会を目指すことを決めました。

では、島に生きる私たちにとっての「幸せ」とはなんでしょう？

第四次総合振興計画をつくるにあたって、「海士町の未来をつくる会」を結成し、多数の住民が海士町の将来について語り合いました。

その結果、私たち海士町の住民は、今や都市では手に入れたことができなかった、多くのことを大切にしていることに気づきました。

海士町に住んでいるからこそ生まれてくる笑顔、海士町に住んでいるから感じられる幸福とはどんなものでしょう。まずは私たち一人ひとりが、海士町に住む幸福について考えることが必要です。そしてさらに、海士町の住民どうしが一緒に、幸せを感じあえる、分けあえる町にするにはどうしたらいいか考えることも必要です。海士町にはさまざまな課題があります。その課題をどう解決していくのかも考えなくてはいいけません。一緒に知恵を出し、一緒に汗をかい、一緒に笑いながら、よりよい明日をつくっていく。それこそが、まちづくりの本来の姿なのです。

住民の声

ひとの視点

島文化を後継教育

人間力を育てる教育

安心できる医療

いつでも本土へ行ける

訪れた人が住みたくなる島

関係汽船会社がこれ以上あからない

子どもが帰ってきたくなる島

島内の交通手段の確保

宅配システムの充実

健康的な暮らし

若者

全国から人が集まってくる高校

学びの場がある

島

田舎ならではの暮らしができる

互いの顔が見える島

安心して生活できる老後

今までどおりいつまでも暮らせる島

たくさんの交流の場がある

楽しい人生を送れる島

子育てしやすい環境がある

自給自足ができる

伝統文化、行事の継承

循環型の暮らし

人と人とのふれあい

自然エネルギーで生活する島

手ごたえのある仕事

ゴミを出さない島

魚介類がたくさんとれる

人が訪れる

風土を生かした特産品がある

誇れる町

後継者

持続可能な島のモデルとなる

海と山が豊かな島

美しい島

農林水産観光産業がバランスよく収入源となる

農村風景が残っている

伝統・文化・景・土地をつなげる相手がいる

環境にやさしい暮らし

産業の視点

環境の視点

海士町の未来を考える会（第四次海士町総合振興計画の策定に関する住民説明会より）

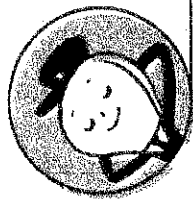
海士町の自慢 1



ほほみんな顔見知り

海士町の人口は約2,400人。顔を見ただけで、どこの子どもなのか、両親はどんな人なのか、どんな仕事をしているのかなど、なんでもわかっています。また、海士町に住みはじめてまだ間もない人のことも、みんなとても興味を持って見ています。早く海士町に馴染むためには、区会へ入り、地域や町内の清掃活動に参加すれば、すぐにみんな顔見知りになります。

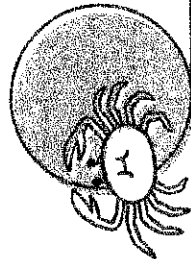
海士町の自慢 2



犯罪がない

海士町では、家に鍵をかけると「何かあったときにどうすっだ!」と怒られます。みんな顔見知りだからこそ、鍵をかけないほうが便利なのがたくさんあります。雨が降ったときの洗濯物、おすそ分け、宅配便の受け取りなど、近所との密なお付き合いによって便利で安全な暮らしができるのです。

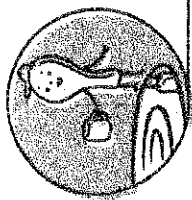
海士町の自慢 3



家にカニが来る

海士町には、アカテガニという小さなカニがたくさん住んでいます。このカニは、少ない水で生きていけること、高いところにも上る習性があることから、川沿いの家や海沿いの家の中によく入ってきます。満月になるとアカテガニが大群で海に向かう様子を見ることが出来ます。小さなお客様の訪問に、豊かな自然と共に暮らしていることを実感できます。

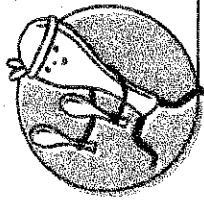
海士町の自慢 4



島なのに水が豊富

一般的に離島は水の確保に苦労していますが、海士町は昔から水が豊富で水の確保に苦労していません。保々見にある「天川の水」は、環境省指定の名水百選にも選ばれており、その水量は一日400トンにもなるそう。水が豊かなので稲作も盛んです。米の島内自給率は120パーセントを越えており、海士の米は、隣の西ノ島町や知夫村などでも食べられています。

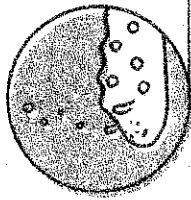
海士町の自慢 5



若者が民謡を歌い踊れる

海士町には「キンニャモニャ」という隠岐民謡があります。「キンニャモニャ」は、しゃもじをもつて、三味線の音にあわせて踊ります。キンニャモニャ祭では、小さな子どもからお年寄りまで全員が踊ることが出来ます。また、ほとんどの若者もこの民謡を歌ったり、踊ったりすることが出来ます。宴会などは、必ずこの踊りですめします。

海士町の自慢 6



ウミウシは食材

海士町や隠岐では、ウミウシ(ペコ)を食べる習慣があります。ウミウシとは、軟体動物で貝の消失した生物の総称で、ゆでてもみ洗いし、煮つけにしたり、酢の物にして食べます。煮つけは、弾力があり、旨味も感じられます。酢の物は、やわらかい食感で味はほとんどありません。ウミウシを食べようという先人は勇気がありました。